県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している

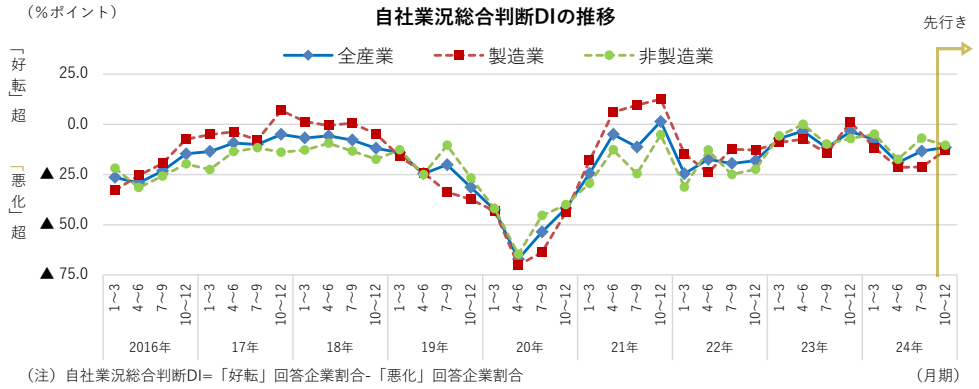
＜今月のポイント＞

■県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している。

■個別項目のうち、雇用情勢は、ハローワーク経由の有効求人倍率が横這い、かつ新規求人倍率が上昇基調で推移していること、さらに民間職業紹介の状況を踏まえ、「持ち直している」と判断を引き上げた。その他の項目は据え置き。

■当社の「茨城県内主要企業の経営動向調査（24年7-9月期）」によると、県内企業の景況感を表す自社業況総合判断DIは、全産業で▲13.3％と、依然水面下ながら前期比5.8pt上昇し、3期振りに改善。業種別では、非製造業が人流の活発化などを受け10.5pt改善したものの、製造業は人件費を含むコスト高などが下押し要因となり、前期から横ばいにとどまった。以上を踏まえ、総合判断は据え置き。

■先行きは物価高や株価が企業や家計にもたらす影響、為替動向、海外経済の行方、政府の経済政策の行方、国内金利上昇など金融環境の変化を注視する必要がある。



（注）自社業況総合判断DI=「好転」回答企業割合-「悪化」回答企業割合

＜基調判断・天気図＞

	基調判断		天気図		
	前月からの変化	2024年10月調査	8月調査	9月調査	10月調査
総合判断	→	一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している			
生産活動	→	弱含んでいる			
設備投資	→	持ち直している			
住宅投資	→	弱含みにある			
公共投資	→	持ち直している			
個人消費	→	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している			
雇用情勢	↗	持ち直している - 労働需給は引き続きタイトな状況			

◆基調判断に添えた矢印は方向感を、天気図は水準を示します

生産は弱含んでいる

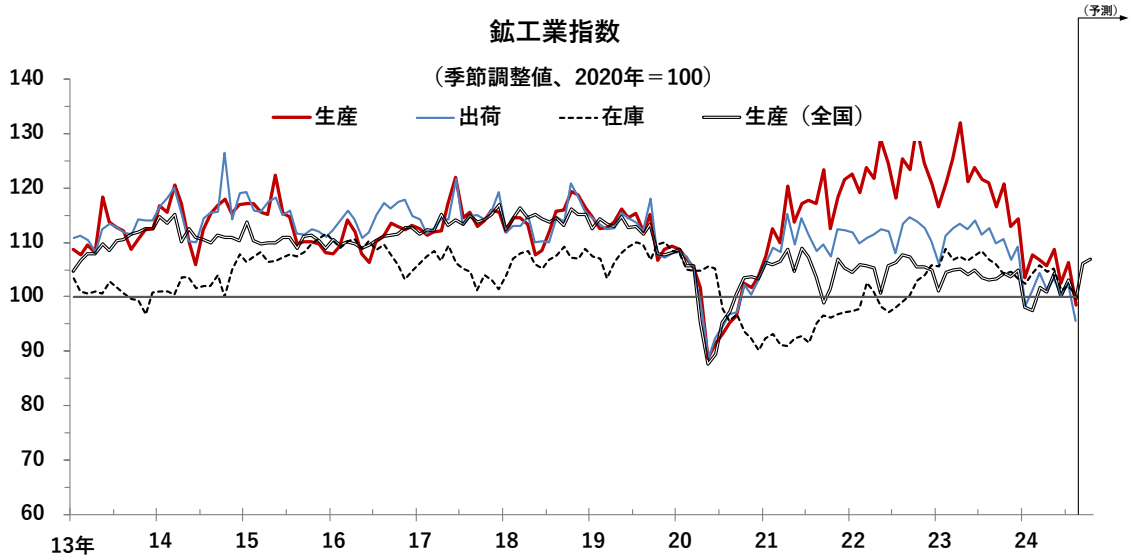
8月の鉱工業生産指数（2020年＝100、季節調整値※1）は98.4、前月比7.5％減と、2か月振りに低下した。業種別の内訳について寄与度順にみると、前月比で上昇したのは繊維（同9.6％増）、鉄鋼（同2.2％増）のみで、その他の13業種はすべて低下した。輸送機械は同11.0％減、化学は同10.8％減、電気機械工業は同11.9％減、食料品・たばこは同3.9％減、電子部品・デバイスは同11.3％減であった。

当社の企業調査では、7-9月期の製造業の生産判断DI※2は▲24.8％、前期（4-6月期▲22.4％）比2.4pt減と小幅ながら悪化した。企業ヒアリング（9月）では、最近の生産・受注に関して、「需要が旺盛で例年以上の業績」（電気機械）、「主要原料の仕入価格が低下し採算が改善」（食料品）との明るい声が聞かれた一方、「中国向け製品の出荷見通しが立たない」（電気機械）、「猛暑のため、家庭で加熱調理が必要な製品の需要が低迷」（食料品）、「人件費や材料費の高騰で利益が確保できない」（窯業・土石）など、製造業を取り巻く外部環境の厳しさを挙げる声も目立った。

このところの生産は、生産指数等などの推移や企業ヒアリングを踏まえると、全体として弱含みの状況にあるとみられ、基調判断は「弱含んでいる」との判断を据え置いた。先行きについて企業調査をみると、10-12月期の生産判断DIは▲17.4％、7-9月期比7.4pt増と上昇する見通し。もっとも、海外経済減速や人件費上昇等に伴うコスト高の影響などが生産活動を下押しする可能性には引き続き注意が必要とみられる。

外需に関係する貿易面についてみると、8月の茨城県内税関3支署の輸出額は1,692億円、前年同月比19.2％減と35か月振りに前年水準を下回った。鹿島は有機化合物（基礎化学品）（同41.9％増）などが増加したものの、ウェイトの高い鉄鋼（同2.6％減）の減少などにより同14.4%減、日立（日立港・常陸那珂港）も主力の建設用・鉱山用機械（同28.9%減）、自動車（同24.7%減）がともに減少し同23.4％減であった。

※1：原数値から季節的要因を調整した数値　※2：前年比で生産の「増加」と「減少」との回答割合



出所：経済産業省　＊月次ベース、全国の24年9、10月の生産指数は製造工業生産予測指数をもとに算出

設備投資は持ち直している、住宅投資は弱含み、公共投資は持ち直している

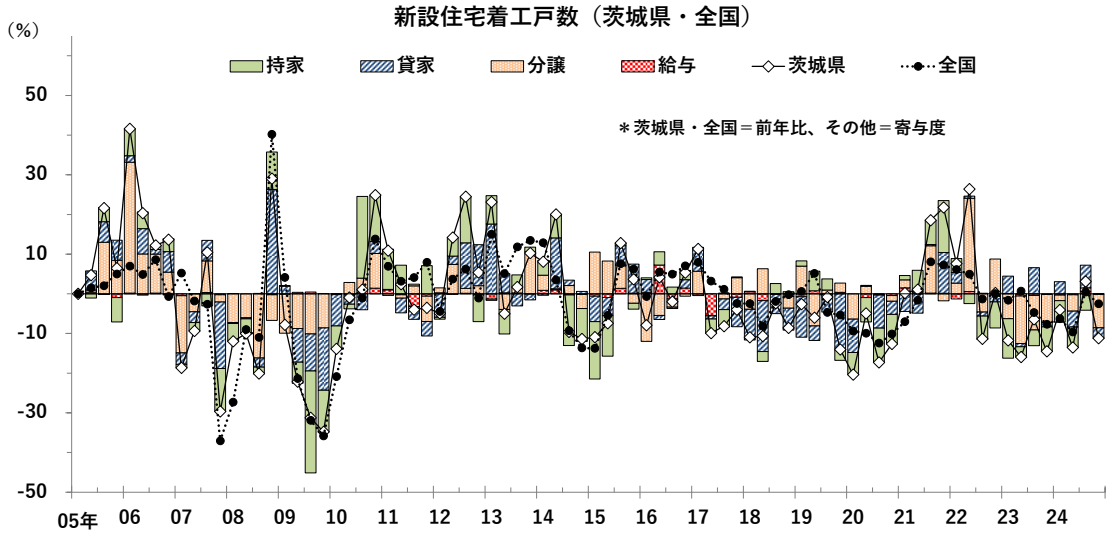
8月の建築物着工床面積（民間非居住用）は、前年の大型物流施設着工の反動減などにより71千㎡、前年同月比56.5％減と3か月連続で前年水準を下回った。

一方、日銀短観（茨城県、9月）によると、県内企業の24年度の設備投資額※は、全産業ベースで同44.4％増の見通し（うち製造業が同51.0%増・非製造業が同30.5%増）。水戸財務事務所の「法人企業景気予測調査（7-9月期調査、茨城県）」によると、県内企業の24年度の設備投資額※は、全規模・全産業ベースで、前年度比36.7%増の見込み（うち製造業が同48.6%増・非製造業が同20.1%増）。また、当社の企業調査（9月）では、24年4-9月期の設備投資実施企業割合（件数ベース）は全産業で57.3%、当初計画比2.1pt増と概ね横ばいであった（うち製造業：56.4％、非製造業58.1％）。当社や日銀などの調査結果を踏まえると、企業の投資意欲には底堅さがみられることから「持ち直している」との判断を据え置いた。

8月の新設住宅着工戸数は1,172戸、前年同月比2.0％減と4か月連続で前年水準を下回った。内訳をみると、持家は660戸、同11.1％増と18か月振りに増加、貸家は320戸、同15.3％減と3か月振りに減少、分譲住宅は189戸（うち分譲マンション0戸）、同15.6％減と3か月連続で減少した。このように、住宅投資は、主力の持家が1年半振りに増加に転じたものの水準は過去に比べ低いこと、建物価格上昇が続くことで住宅購入マインドも弱いとみられることなどから「弱含みにある」との判断を据え置いた。

9月の公共工事請負金額は501億65百万円、前年同月比4.1%減と3か月振りに前年水準を下回った。内訳をみると、国、独立行政法人等が増加、県、市町村が減少した。公共投資は単月では前年割れとなったものの、24年度累計（4～9月）では前年同期比10.5％増と堅調に推移していることを踏まえ、「持ち直している」との判断を据え置いた。

※ともにソフトウェアを含む（除く土地投資額）



出所：国土交通省 ＊四半期ベース、24年3Qは7、8月の数値

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している

9月の乗用車販売台数（乗用車新規登録台数＋軽乗用販売台数）は8,965台、前年同月比3.2％減と、2か月連続で前年水準を下回った。内訳は普通乗用車が同1.9％増、小型乗用車が同1.2％減、軽乗用車が同10.5％減であった。

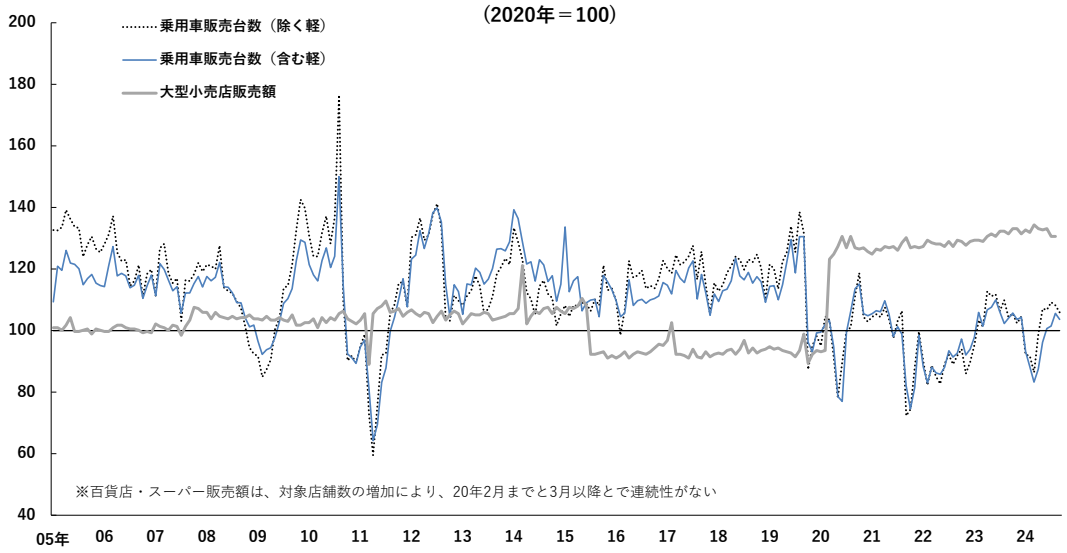
8月の百貨店・スーパー販売額は、全店ベースで前年同月比4.5％増、既存店ベースは同3.3％増と、ともに2か月振りに前年水準を上回った。専門量販店販売額は、家電量販店が同13.9％増と9か月連続で、ホームセンターは同5.4%増と2か月振りに前年水準を上回った。ドラッグストアは3.5％増と40か月連続で、コンビニエンスストアも同0.3％増と4か月連続で前年水準を上回った。

8月の家計消費支出（2人以上の勤労者世帯・水戸市）は、食料や住居費（設備修繕・維持）、教養娯楽などの増加により、前年同月比20.2％増と3か月振りに前年水準を上回った。消費マインドに関して9月の「景気ウォッチャー調査－北関東－」をみると、家計動向関連DI(現状判断)は49.1、前月比4.3pt増と、目安である50を下回ったものの2か月振りに上昇した。

ヒアリング（9月）では、「地域のイベント・行事が盛況で消費が活発化した」（小売業）との声が聞かれた一方、「7月は猛暑・豪雨等の天候の影響から客足が遠のき、売上高が（前年比で）減少」（食品スーパー）との声があったほか、「地震・台風等の自然災害リスクが大きく報じられたため、客足が一時的に鈍化した」（宿泊・飲食業）との声も聞かれた。

このように、個人消費は、消費マインドになお弱さがみられる中、天候の影響を受けた業種があったものの、総じてみれば底堅く推移していることから「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している」との判断を据え置いた。先行きは実質所得の改善や消費マインドの行方について引き続き注視する必要がある。

乗用車販売台数、百貨店・スーパー販売額



出所：茨城県自動車販売店協会、経済産業省　＊X-13-ARIMAによる季節調整値、月次ベース

雇用情勢は持ち直している―労働需給は引き続きタイトな状況

8月の雇用関連指標（ハローワークの求人対象）は、有効求人倍率（季節調整値）が1.31倍と前月と同じであった。新規求人倍率は2.17倍、前月比0.06pt増と3か月連続で上昇した。就業地ベースでの有効求人倍率は1.51倍と前月と同じであった。

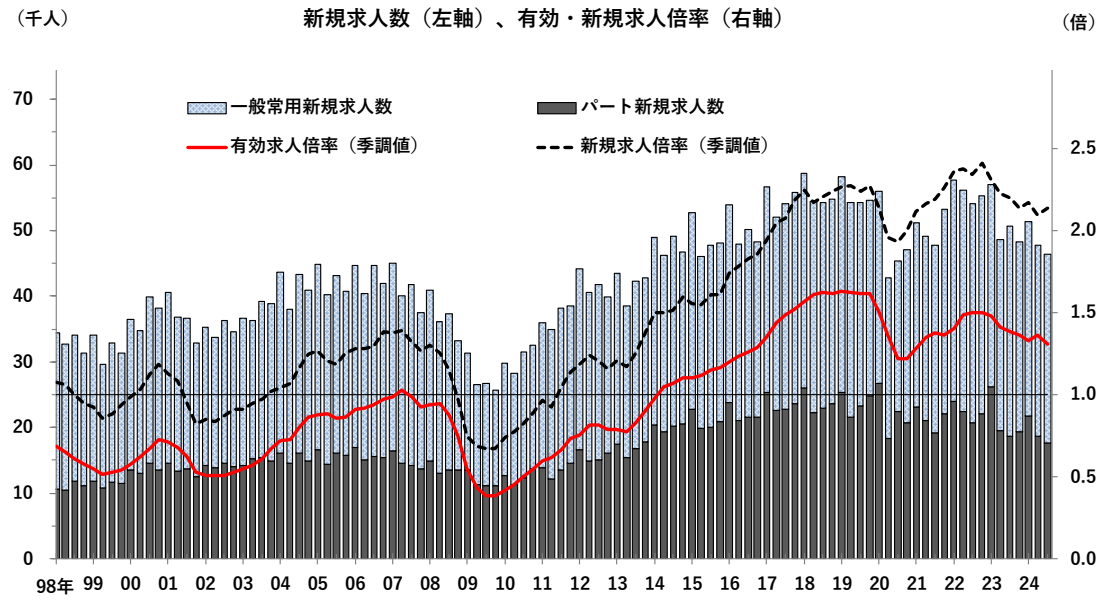
新規求人数は15,958人、前年同月比2.2%減と4か月連続で前年水準を下回った。新規求職者数は6,920人、同5.3%減と2か月振りに前年水準を下回った。新規求人数（パートを除く）の内訳を産業別にみると、情報通信業（同24.2%増）、建設業（同5.4%増）などが増加した一方、製造業（同16.5%減、20か月連続の減少）、サービス業（他に分類されないもの）（同11.1%減）、卸売業・小売業（同3.6%減）、運輸業・郵便業（同2.5%減）、宿泊業・飲食サービス業（同1.9%減）などが減少した。

また、民間職業紹介における県内の求人動向をみると、正社員は増加傾向、アルバイト・パートは緩やかな減少傾向にあり、総じてみれば持ち直している。

失業者を示す雇用保険受給者数は9,371人、前年同月比0.8%減と2か月振りに前年水準を下回った。事業主都合離職者数は、同8.8%減と4か月振りに前年水準を下回った。

このように、雇用情勢は、ハローワーク経由の有効求人倍率が横這い、かつ新規求人倍率が上昇基調で推移していること、さらに民間職業紹介の状況を踏まえ、労働者側から見て「持ち直している」と判断を引き上げた。なお、日銀短観（茨城県・9月）によると、企業の人手不足感を示す雇用人員判断DI※1（全産業）は、前期比で「不足」超が拡大した（6月：▲25→9月：▲29）。「法人企業景気予測調査（茨城県）」においても、7-9月期の従業員数判断BSI※2は、全規模・全産業ベースで25.0%ptと大幅な「不足気味」超となっており、企業側にとって深刻な人手不足の状況が続いている。

※1：「過剰」－「不足」　※2：「不足気味」－「過剰気味」



出所：厚生労働省　＊四半期ベース、23年3Qは7、8月の数値

茨城県経済動向　基調判断の推移

		基調判断
2021	2	県内経済は、新型コロナウィルスの影響から依然として厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	3	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	4	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	5	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	6	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	7	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	8	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	9	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	10	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	11	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
	12	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
2022	1	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる
	2	県内経済は、新型コロナウィルスの影響が続いているものの、持ち直しの動きがみられる
	3	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により、持ち直しの動きが一服している
	4	県内経済は、新型コロナウイルスの影響により、持ち直しの動きが一服している
	5	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる
	6	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる
	7	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる
	8	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの兆しがみられる
	9	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある
	10	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある
	11	県内経済は、資源高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある
	12	県内経済は、資源高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある
2023	1	県内経済は、資源高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある
	2	県内経済は、資源高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある
	3	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある
	4	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある
	5	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある
	6	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直しつつある
	7	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直している
	8	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直している
	9	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直している
	10	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直している
	11	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直している
	12	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直している
2024	1	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直している
	2	県内経済は、物価高などの影響を受けつつも、持ち直している
	3	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している
	4	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している
	5	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している
	6	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している
	7	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している
	8	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している
	9	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している
	10	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している

各指標の動向判断の推移

		生産	住宅	設備投資
2024	9	持ち直しの動きに足踏みがみられる	弱含みにある	持ち直している
	10	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
	11	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
	12	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
2024	1	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
	2	横ばい圏内で推移している	弱含みにある	持ち直している
	3	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	4	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	5	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	6	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	7	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	8	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	9	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している
	10	弱含んでいる	弱含みにある	持ち直している

		公共投資	個人消費	雇用
2024	9	持ち直している	緩やかに回復している	持ち直しの動きに足踏みがみられる
	10	持ち直している	緩やかに回復している	持ち直しの動きが弱まっている
	11	持ち直している	緩やかに回復している	持ち直しの動きが弱まっている
	12	持ち直している	緩やかに回復している	持ち直しの動きが弱まっている
2024	1	持ち直しの動きに足踏みがみられる	緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	2	持ち直しの動きに足踏みがみられる	緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	3	持ち直しの動きに足踏みがみられる	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	4	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	5	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	横ばい圏内で推移している
	6	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直しの兆しがみられる
	7	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直しの兆しがみられる
	8	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直しの兆しがみられる - 労働需給は引き続きタイトな状況
	9	持ち直している	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直しの兆しがみられる - 労働需給は引き続きタイトな状況
	10	持ち直している	一部に弱さがみられるものの緩やかに回復している	持ち直している - 労働需給は引き続きタイトな状況

「茨城県経済動向」は旧常陽地域研究センター（常陽アーク）が
1969 年より継続してまいりました月例調査を、
2019 年 4 月以降、常陽産業研究所が継承・実施しているものです

表紙の通番は常陽アーク時の通番を引き継いでおります

常陽産業研究所

地域研究センター

・本資料は、当社が独自に集計・入手しているデータを除き、2024年10月24日現在で公に利用可能な統計指標に基づき作成されています。
・公開されている統計指標は、過去に遡及して改訂されることがあります。
・統計指標を利用する際は、常に最新の公表資料を参照する必要があります。
・本資料は、統計指標とそれに基づく判断が正確であるよう最善を尽くしておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
・本資料に示した将来に関する全ての記述は、現時点での判断を示しているに過ぎません。